

社会科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・ICT 機器の活用と楽しく既習事項の定着を図る活動を取り入れたことで、主体的に学習に取り組む態度の正答率がほぼ目標値に達している。

【 課題 】

- ・昨年度同様、複数の資料や文章を読み取ることに課題がある。引き続き、資料の読み方の指導に重点を置くとともに、文章を読み取る力を、国語科を中心として他教科でも指導していく必要がある。
- ・4年生の方位や区の様子、5年生の都道府県の位置、6年生の大陸の位置や名称などの前学年で学習した内容の定着に課題があるため、振り返りや小テストの実施していく必要がある。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	≒		
第5学年	≒	▽	
第6学年	≒	△	≒

学習状況の分析

○知識・技能

- ・4～6年は目標値とほぼ同じ水準におり、4年生は全国平均正答率をやや下回っている。5年生・6年生は目標値を上回っている。4年生では「安全なくらし事故や事件」、5年生では「都道府県の様子」、6年生では「自動車をつくる工業」「日本の工業生産」に関する問題の正答率が低く、前学年の既習事項の定着に課題があると考えられる。

○思考・判断・表現

- ・4年生は目標値とほぼ同水準である。5年生・6年生は目標値を下回っている。4年生では「市の様子の移り変わり」、5年生では「特色ある地域の様子」、6年生では「日本の水産業」「情報を生かした産業」の正答率が低く、自分で考えたことを文章で表すことに課題が見られる。
- ・4年生の「店ではたらく人」、6年生の「日本の農業」に関する問題の正答率が高く、目標値を上回っている。身近な問題に関しての正答率が高いことが伺える。

○主体的に取り組む態度

- ・4年生から6年生で目標値を上回っている。すすんで学習する態度が各学年で形成されていることが伺える。

授業改善のポイント（観点別）

【 中学年 】

○知識・技能

- ・基礎的な用語や地図記号、都道府県名・主な地名など自分の経験や知識、既習事項と関連付けて学習し、小テストなどで定着を図る。
- ・買い物調べの結果をグラフに表す問題の無解答率が高く、グラフの表し方を理解していない児童も一定数いる。算数との関連も図り授業改善を行っていく。

○思考・判断・表現

- ・「市の様子の移り変わり」の正答率が目標値より低い。写真や年表、人口の変化を表す資料を読み取ったり、まとめる活動で活用したりするなどの表現活動を充実させる。
- ・体験後のまとめの学習では、メモや資料を基に、新聞、パンフレットなどにまとめる表現活動を取り入れる。

○主体的に取り組む態度

- ・自分たちの住む地域とのつながりや家庭との関わりを意識させ、社会事象への関心を高めさせる。
- ・スーパーマーケット、消防署、大田市場等の見学、昔の暮らし体験を通して、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。
- ・3年から断続的に地図帳を開く時間を設定し、基礎的な用語や地図記号、地名等に親しむ。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・基礎的な用語や地図記号、都道府県名・主な地名など自分の経験や知識、既習事項と関連させながら学ぶ工夫をし、小テストなどで定着を図る。
- ・ICT機器を効果的に活用して社会的事象を表す単語や地名、歴史上の人物など、児童の意欲を引き出したりしながら知識の定着を図る。

○思考・判断・表現

- ・国土、産業、歴史分野の学習内容を重点に、統計資料の読み取り方を指導する。
- ・調べたことや考えたことをノートやワークシートに表したり、新聞やパンフレットにまとめさせたりする。
- ・見学や体験学習ごとに、相互に見合ったり話し合ったりして互いに考えを深める。
- ・事象に対して

○主体的に取り組む態度

- ・日々のニュースや社会的な出来事を紹介し、社会的な事象への関心や課題解決をしようとする意欲を高め、生活に生かそうとする態度を育てる。
- ・6年生の歴史単元では、我が国の歴史や社会的事象を地図上で確認し、歴史的・社会的事象が起こる条件が地理的条件と関連することにもあることに気付かせる。
- ・振り返りを通して学習して学んだことや考えたことを書く活動を取り入れる。